

図書館がすすめる 夏休みの本（5・6年向き）

「父さんはどうしてヒトラーに投票したの？」
 デイ・エ・デ・ニクス／作 PEF／絵
 解放出版社（234ト）
 ヒトラーが政権をとった日から独裁、戦争、人種差別はエスカレートしていった。



「みんなのチャンス」
 石井光太／著 少年写真新聞社（367ミ）
 家がなく路上で生活している子どもたちが世界中に4億人もいる。その子どもたちは学校にも行けず、食べものも満足にない。わたしたちのあたりまえを見直してみよう。



「ふたり」
 福田隆浩／著 講談社（YFフ・913フ）
 読書好きの村井准一と転校生の小野佳純は、二人ともミステリー作家、月森和のファンだと知って仲良くなる。月森和が別の名前でも本を書いていることを知った准一は、佳純とその名前を探し始める。



「花守の話」
 柏葉幸子／作 講談社（913カ・ハ）
 春休みにカゼをひいて寝込んでしまった瞳子。仕事が忙しい両親にかわっておばあちゃんが看病に来てくれたが、おばあちゃんが夜中に呼び出されてしまう！困った瞳子は…。



「まちぼうけの生態学」
 遠藤知二／文 福音館書店（485マ）
 虫と虫の関わりあいを研究する生態学者のぼく。アカオニグモの見事な狩りを見てからは、アカオニグモと他の虫との関わりあいを調べている。



「クジラのおなかからプラスチック」
 保坂直紀／作 旬報社（519ク）
 タイの海岸に打ち上げられたクジラの胃の中から80枚のプラスチックの袋が出てきた！この袋は人間が作ったものだ。どうしたらプラスチックごみを減らせるのだろう。



「ふたリユースケ」
 三田村信行／作 理論社（913ミ・フ）
 引っ越した町で「神童」大川ユースケの生まれ変わりにされてしまった小川ユースケ。町の人たちは、小川ユースケの「大川ユースケ化計画（プロジェクト）」を勝手に始めてしまった！



「ぼくの夏休み革命」
 つちもととしえ／作 国土社（913ツ・ボ）
 夏休みの初日にケガをしてしまった誠也はしかたなく部屋の片づけを始めた。部屋にたまっていたゴミを捨てていくうちに、自分の頭の中もスッキリしていくようで…。片づけに目覚めた誠也の夏休みは…。



「この計画はひみつです」
 ジョ・ウイナ／文 ジャネット・ウイナ／絵
 さくまゆみこ／訳 鈴木出版（Eコ）
 学校が立ち退いた後に研究所が建ち、国中から科学者たちがたくさん集まってきた。科学者たちは、自分たちがそこで何をしているかを言わなかった。



「みんなちがって、それでいい」
 宮崎恵理／著 重本沙絵／監修
 ポプラ社（782ミ）
 生まれつき右腕のひじから下がない沙絵。持ち前の負けん気で陸上競技に打ち込み、リオパラリンピックで銅メダルを獲得した。



「ルドルフとイッパイアッテナ」
 斉藤洋／作 講談社（913サ・ル）
 黒ねこのルドルフは、魚屋のおじさんに追いかけてトラックの荷台の中に逃げ込んだ。トラックに乗せられ東京まで来てしまったルドルフは、ポスねこのイッパイアッテナに出会う。



「なまけものの王さまとかしこい王女のお話」
 ミラ・ローベ／作 佐々木田鶴子／訳
 徳間書店（943ロ・ナ）
 なまけものの王さまナニモセン5世が病気になるってしまった。国中の医者がやってきたが誰も王さまを治すことができない。王さまの病気を治してくれる人を探しに城を飛び出した王女さまだが…。

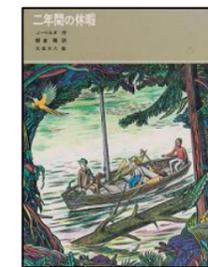
「せかいでいちばんつよい国」
 デビット・マッキー／作 なががわちひろ／訳
 光村教育図書（Eマ・セ）
 大きな国の大統領は他の国を戦争で負かして、国をさらに大きくしていった。最後に残ったのはちっぽけな国で…。



「きかせたがりやの魔女」
 岡田淳／作 偕成社（913オ・キ）
 ぼくは階段の踊り場で魔女に出会った。魔女は学校の時間を止めて、ぼくに「踊り場の魔女の話」を聞かせてくれた。きかせたがりやの魔女から聞いた6人の魔女と魔法使いの話。



「二年間の休暇」
 J・ベルヌ／著 朝倉剛／訳
 福音館書店（953ヴ・ニ）
 15人の少年を乗せた帆船スラウギ号が、停泊していた港から海に流されてしまう。船は嵐にまき込まれ壊れてしまったが、島に打ち上げられたため少年たちは助かった。ところが、その島が無人島で…。



「名探偵カッくん」
 アストリッド・リッドグレーン／作
 尾崎義／訳
 岩波書店（949リ・メ）
 カッ、エヴァロッタ、アンデッシュは楽しい夏休みをすごしていた。ところが、エヴァロッタの親戚のエイナルおじさんがやってきて夜中にこそこそと動きまわるので…。

